



インタビューコーナー



森永靖子議員（市民福祉委員会委員長）

質問一

人口の半数以上は女性なのに、市政に女性が少ない、女性の声を政治の場へ届けたい！今まで女性たちがずっと経験してきたことを、政治の場へ届けたい！その為に女性の議員を議会へ送り出さないといけないという思いから「県内に女性の議員を増やそう」と、平成八年十月に県内数名の女性たちで、サポートチームを結成しました。一年間しっかり勉強会をし、会員も増えました。その後、三年間は女性議員が一人もいない市町村へ出前講座に出かけサポートし

て参りました。ちょうどその頃、旧川内市も平成十二年二月市議会補欠選挙が行われました。十一年間、女性議員がいないので、出馬してみないかと勧められ、女性の意見を政策・方針決定の場に反映するその時が来たのだと思い、男性ばかりの世界に飛び込むことにしました。十一年ぶりに女性の議員誕生でした。脳血管障害の母の在宅介護、その中での子育という経験を生かし、生活者の視点に立ち、女性の声を市政の場に届ける決意をしました。

質問二

人間には、持って生まれた性があります。私自身としては、女に生まれて良かったとか、悪かったとか考えたことはありません。しかし、女性を取り巻く社会状況や環境は、とても男女平等とはいえない状況です。

例えば、政治、教育行政、産業（企業）分野、地域活動分野においては、女性の参画が十分な状況と

はいえませんが。現実として合併により、女性の議員も相当減りました。性によって生き方が決められることになるのは非常に残念なことです。

質問三

旧川内市では、約十年前前から、女性団体、PTA、その他いろいろな団体で、このことを取り組んできました。その中で少しずつ男女一緒に話していく意識が育ってきました。このような活動が、プラン・基本条例・基本計画と県内トップでの制定になりました。最初から、このことに関わってきた私としては、感慨深いものがありました。市長のご理解があったからこそ、ここまで進んで来たことが合併により逆戻りすることのないようにしないといけないと思います。

男女共同参画の基本は、家庭である、私は考えます。そのような考えから、四月に設置される地

区コミュニティ協議会のコミュニティ単位で進めて行くことが良いと思います。男女共同参画について、大きな会場でセミナーやシンポジウムをやっても、男性の参加者は少数です。どんなに内容が素晴らしくても人が集まらないと、効果は上がりません。また、中心になって活動するメンバーにも新しい風が必要です。そのためにはやはりコミュニティ単位で、男性も一緒に進めて行くことからは始めなければいけないと思います。行政の方から男性や企業単位での参加など、積極的に取り組んでほしいところです。

また、旧川内市で学習を重ねてきた人材を各地域のコミュニティセンターでの出前講座で活用するのも一つの方法です。自分たちの住むまちには、自分たちでつくり、責任をもって進めていくという地域コミュニティを大事にしていきたい。そのために一人ひとりが、連携を取りながら、男女共同参画への問題意識を持ち、取り組んでいくことが大事だと思います。